

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 水戸ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門課程	美容学科	夜・通信	300	160	
	総合ビューティ学科	夜・通信	234	160	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.mito.ac.jp/>で公開する

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 水戸ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.mito.ac.jp/ で公開する

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	旅行会社 相談役	令和6.4.1～ 令和9.3.31	企画
非常勤	取締役営業本部長	令和6.4.1～ 令和9.3.31	コンプライアンス
非常勤	一般企業 支店長	令和6.4.1～ 令和9.3.31	労務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 水戸ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 八文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・美容師法に基づき美容師養成施設に関する美容師免許証の取得の為、所定の学科・実習授業科目、授業時間、成績評価に準ずる。 ・8月、3月頃に編成委員会において審議 ・授業計画の変更があった場合、年度末までに厚生労働省に提出 ・年度初めにホームページにて公表	
授業計画書の公表方法	https://www.mito.ac.jp/ で公開する
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・美容師法に基づき美容師養成施設に関する美容師免許証の取得の為、所定の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ履修認定を実施。 ・科目修得の認定は試験によるものとし、試験は原則として学期末に、その履修科目について筆記、レポート、実技などの適切な方法によって行う。 ・成績の評価は、A・B・Cを合格とし、Dは不合格とする。 ・評価にあたっては、所定の点数が充たされていない場合は不合格とする。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
・履修科目の成績評価を点数化し全科目の合計点で各学年の順位を算定する。 ・学期末試験を行い、履修科目の成績評価を点数化し、合計点で各学年の順位付けを実施。1/4 以下の学生に対して、個別指導や三者面談を実施し、成績を促す。 ・成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100点満点、40点以上を合格とする素点による評価 ・A (80 点以上)・B (60 点～79 点)・C (40 点～59 点)・D (不合格)	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.mito.ac.jp/ で公開する
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
・美容師免許証取得、資格検定所得を到達目標とし、所定の就業年限（2年）以上在学し、所定の授業科目及び所定の授業時間数（2040時間）を履修していること。また、学期末試験において所定の授業科目の修得が認定されていること。 ・資格検定取得を到達目標とし、所定の就業年限（2年）以上在学し、所定の授業科目及び所定の授業時間数（1800時間）を履修していること。また、学期末試験において所定の授業科目の修得が認定されていること。 ・学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）及び美容師法（昭和 32 年法律 163 号）に基づき、美容に関する知識・技能を修得させ、あわせて社会人としての教養と、豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成することを目的とする。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.mito.ac.jp/ で公開する

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校 水戸ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mito.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	https://www.mito.ac.jp/
財産目録	学校事務局備え付け・閲覧、入手方法・コピー配布可
事業報告書	学校事務局備え付け・閲覧、入手方法・コピー配布可
監事による監査報告（書）	学校事務局備え付け・閲覧、入手方法・コピー配布可

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
衛生		衛生専門課程	美容学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2040 単位時間／単位	660 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1170 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	210 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
228 人		136 人	0 人	8 人	6 人	14 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 美容師法に基づき美容師養成施設に関する美容師免許証の取得の為、所定の学科・実習授業科目、授業時間に準じカリキュラムを構成している。
成績評価の基準・方法
（概要） ・美容師法に基づき美容師養成施設に関する美容師免許証の取得の為、所定の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ履修認定を実施。 ・学期末試験、出席状況、授業態度による点数評価及び課題提出物の評価。 ・成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100点満点、40点以上を合格とする素点による評価 ・A（80点以上）・B（60点～79点）・C（40点～59点）・D（不合格）
卒業・進級の認定基準
（概要） ・所定の授業科目及び所定の授業時間数を履修していること。また、学期末試験において所定の授業科目の修得が認定されていることが進級の認定条件。（進級時 970 時間） ・所定の就業年限（2年）以上在学し、所定の授業科目及び所定の授業時間数を履修していること。また、学期末試験において所定の授業科目の修得が認定されていることが卒業の認定条件。（卒業時 2040 時間）

学修支援等
(概要) 1/4 以下の学生に対して、個別面談や三者面談等の指導を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
69 人 (100%)	0 人 (0%)	68 人 (98.6%)	1 人 (1.4%)
(主な就職、業界等) 美容室、美容業界			
(就職指導内容) 1 年次の 10 月から 3 月にかけて、校内ガイダンス開催。就職活動のための資料公開 (求人票、昨年の求人データ)			
(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師国家資格の受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
145 人	16 人	11%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、学習意欲の低下、企業等への就職、進路変更。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 美容通信課程への進路変更、学生に対してのカウンセリング。保護者を交えての三者面談。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
衛生		衛生専門課程	総合ビューティ学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1800 単位時間／単位	396 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	204 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1200 単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
60 人		30 人	0 人	5 人	1 人		6 人	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (88.9%)	2 人 (11.1%)
(主な就職、業界等) エステティックサロン・ネイルサロン・化粧品メーカー・美容業界			
(就職指導内容) 1 年次の 10 月から 3 月にかけて、校内ガイダンス開催。就職活動のための資料公開 （求人票、昨年の求人データ）			
(主な学修成果（資格・検定等）) A E A 上級認定エステティシャン・J N E C ネイリスト技能検定 2 級 M S O J メイクアップ検定 2 級の受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	2 人	6.3%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の低下、進路変更。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生に対してのカウンセリング。保護者を交えての三者面談。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
美容学科	150,000 円	630,000 円	771,000 円	その他 (実習費・施設設備費・教材費・学生研修費・保険料等)
総合ビューティ学科	150,000 円	630,000 円	741,000 円	その他 (実習費・施設設備費・教材費・学生研修費・保険料等)
修学支援（任意記載事項）				
通学支援として定期券半額補助や大型スクールバスの運行、一人暮らし支援、特待制度などによる学費等の免除を行っている。入学者の保護者または兄弟姉妹が、八文字学園の卒業生(または在校生)であることによって入学金から 10 万円を免除とする。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mito.ac.jp/ で公開する		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
本校の学校評価は、本校が自らの教育活動、その他の学校運営について、組織的、継続的な改善を図り、その説明責任を果たすこと、及びそれによって、企業等からの理解と参画を得て、その連携協力による教育を推進することにより、職業教育の水準の維持向上が図られることを期して行うものである。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
茨城県美容業生活衛生同業組合 監事	令和 2 年 7 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	団体役員
タカラベルモント株式会社 北関東理美容営業所 所長	令和 2 年 7 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	企業等委員
株式会社ティーエムプロジェクト 代表取締役	令和 2 年 7 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	企業等委員
堤理美容商事株式会社 代表取締役社長	令和 2 年 7 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mito.ac.jp/ で公開する		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<https://www.mito.ac.jp/>で公開する

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H108320100130
学校名（〇〇大学 等）	専門学校 水戸ビューティカレッジ
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人八文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		28人	20人	28人
内 訳	第Ⅰ区分	15人	－	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				28人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	—
計	0人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

令和5年度

〈美容学科〉

履修科目の成績評価を点数化し全科目の合計点で各学年の順位を算定する
(100点満点で点数化)

学科名	美容学科	学年	1	学生数	60名
-----	------	----	---	-----	-----

成績 分布

指標の数値	50点未満～	60点～	70点～	80点～	90点～	100点
人数	4	20	25	10	1	0

下位1/4に該当する人数	15名
下位1/4に該当する指標の数値	65点以下

令和5年度

〈総合ビューティ学科〉

客観的な指標の算出方法

履修科目の成績評価を点数化し全科目の合計点で各学年の順位を算定する
(100点満点で点数化)

学科名	総合ビューティ学科	学年	1	学生数	12名
-----	-----------	----	---	-----	-----

成績の分布

指標の数値	50点未満～	60点～	70点～	80点～	90点～	100点
人数	0	1	3	7	1	0

下位1/4に該当する人数	3名
下位1/4に該当する指標の数値	79点以下

令和5年度

〈美容学科〉

履修科目の成績評価を点数化し全科目の合計点で各学年の順位を算定する
(100点満点で点数化)

学科名	美容学科	学年	2	学生数	69名
-----	------	----	---	-----	-----

成績 分布

指標の数値	50点未満～	60点～	70点～	80点～	90点～	100点
人数	7	20	23	19	0	0

下位1/4に該当する人数	17名
下位1/4に該当する指標の数値	67点以下

令和5年度

〈総合ビューティ学科〉

客観的な指標の算出方法

履修科目の成績評価を点数化し全科目の合計点で各学年の順位を算定する
(100点満点で点数化)

学科名	総合ビューティ学科	学年	2	学生数	18名
-----	-----------	----	---	-----	-----

成績の分布

指標の数値	50点未満～	60点～	70点～	80点～	90点～	100点
人数	0	2	3	12	1	0

下位1/4に該当する人数	4名
下位1/4に該当する指標の数値	72点以下

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(衛生専門課程 美容学科) 令和6年度																
分 類			実 務 経 験	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択							講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○				関係法規・制度	美容師になるために必要な、法規として、法制度の概要、衛生行政の概要、美容師法、その他の関連法規について学習する。	2通	30		○			○		○		
○			○	衛生管理Ⅰ	美容の業を通して、公衆衛生の維持と増進への責務の重要性を学習する。 サロンで行われている衛生措置を把握させ、公衆衛生の重要性を学習する。	1通	50		○			○			○	○
○			○	衛生管理Ⅱ	微生物の種類、増殖と環境への影響について学習する。又、人体の免疫や、病原菌と人体の感受性を学び、感染症対策について学習する。	1通	40		○			○			○	○
○			○	美容保健	人体の構造及び機能を学び、理解させる。又業務上、刃物や薬品を使用するため、皮膚や毛髪に関する知識が必要なるため、皮膚やその付属機関に関する知識を学習する。	2通	90		○			○		○		
○			○	香粧品化学	物理の分野では、熱、光、電気等で美容師が使用する器具や用具に関連する知識、化学の分野では香粧品を中心に学習する。	2通	60		○			○			○	
○			○	美容文化論	日本や海外の美容ファッションの変遷、流行について学び、また、服飾の歴史、衣服の種類なども学び美容業との関連性を学習する。	2通	60		○			○			○	
○			○	美容技術理論	美容用具の適切な管理や使用方法、美容技術については技術を理論的に説明できるように学ぶ。また、施術前のカウンセリングなども学習する。	2通	150		○			○		○		
○				美容運営管理	美容師として必要な接客の役割や心構え、マーケティングや経営者として必要な経営管理、労務管理、健康管理を学習する。	2通	30		○			○		○		

(衛生専門課程 美容学科) 令和6年度																
分 類			実務 経 験	授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場 所		教 員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専任	兼任	
○			○	美容実習	ワインディング、オールウェーブ、カットの基本技術から、サロンワークに必要なシャンプー、カラー、ブローなどの技術を修得する。	2通	900			○	○		○			
	○			コンピュータ実習Ⅰ	ワープロソフトを使用して、ビジネス文書の作成から簡単なポスター作成までを学習する。	1通	30			○	○			○		
	○			コンピュータ実習Ⅱ	表計算ソフトを使用して、四則演算、関数を用いての演算、グラフの作成などの学習をする。	1通	30			○	○			○		
	○			まつ毛エクステンション	基本のまつ毛エクステンション基礎知識・技術・施術をする上での注意点等を修得する。	1通	30		△	○	○		○			
	○		○	社会福祉	社会福祉、社会保障制度、社会福祉と事業の仕組み、社会福祉専門事業者等について学習する。	1通	30		○	△	○			○		
	○		○	日本文化	日本髪の種類、特徴を理解させ、その歴史やファッション史についても学習する。また、和服についても着付けを通して、美しさを引き立てるための技術を学習する。	1通	30		○		○		○			
	○		○	美容 カウンセリング	「相談の基礎知識」、「人間の心の働きや仕組みの基礎知識」、「カウンセリングの基礎技法」、「カウンセリングの練習」などを学び、また自己理解を深め、自分の精神衛生管理もしっかりできるようになることが学習目的である。	1通	30		○		○		○			
	○		○	ビジネス実務	企業から求められる人物像、社会人として身に付けるマナー、知識を中心に、職業観、勤労観を学習する。	2通	60		○		○		○			
	○			エステティック技術	フェイシャルハンドマッサージ、エステ機器を使って吸引技術、パターマッサージを修得する。	1通	60			○	○		○			
	○			メイク・アップ	スキンケアからベースメイク、アイメイクを学び、一人ひとりに合わせたパーソナルメイクを学習する。	2通	60		△	○	○		○			

(衛生専門課程 美容学科) 令和 6 年度																
分 類			実 務 経 験	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択							講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○			ネイル・ケア	ネイルケア、カラーリングなどの基礎技術から、ネイルチップでネイルアートを修得する。 また爪の構造、病気等の衛生面についても学習する。	2 通	60		△		○	○		○		
	○		○	ヘアー・ デザイン	雑誌、写真集などを参考にし、トレーシングペーパーに書き、デッサンについて学習する。	1 通	60				○	○		○		
	○		○	美容総合技術	サロンでの接客や接遇マナーを学習する。また、シャンプーのロールプレイングなどを通して、必要な技術、知識を修得する。	2 通	150		○		△	○		○		
合計					21 科目	1710 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：定められた履修時間、2040 時間をすべて履修する。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業時間	20 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の 3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。
実務経験のある教員等による授業科目 (省令で定めた相当分) 合計 300 時間

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(衛生専門課程 総合ビューティ学科) 令和 6 年度																
分 類			実 務 経 験	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択							講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			○	メイクアップⅠ	メイクアップ概論、形態学、色彩、スキンケア、ベースメイク、アイメイク、リップメイクなどの基礎知識を修得する。	1 通	180		△		○	○		○		○
○			○	メイクアップⅡ	イメージメイク、ブライダルメイク、映像メイク、舞台メイクなど応用メイクの知識、技術を修得する。	1 通	90		△		○	○		○		○
○			○	トレンドメイク	メイクアップ応用。印象別イメージメイク、モデルに合わせたメイクアップとそのアドバイス法を習得する。	1 通	90		△		○	○		○		○
○			○	ネイル・ケアⅠ	ネイルケア、カラーリング、フラットアート、リペアなどの基礎知識、技術を修得する。	1 通	180		△		○	○		○	○	○
○			○	ネイル・ケアⅡ	アクリルネイル（エンボスアート、3Dアート等）、ジェルネイルの技術を修得し、卒業作品を制作する。	1 通	180		△		○	○		○	○	○
○			○	エステティック 技術Ⅰ	ボディ、フェイシャル、脱毛の基礎知識、接客対応、ボディトリートメント等を修得する。	1 通	240		△		○	○		○		
○			○	エステティック 技術Ⅱ	カウンセリングやエステ機器を使用した、ボディ、フェイシャル等の応用技術を修得する。	1 通	240		△		○	○		○		
○			○	エステティック 学科Ⅰ	エステティック概論、皮膚科学、解剖生理学、運動生理学、栄養学、化粧品学、関連法規、衛生消毒、救急法について学習する。	1 通	36		○			○		○		
○			○	エステティック 学科Ⅱ	エステティック電気学、機器学、カウンセリング、サロンマネジメント、東洋西洋のセラピー、脱毛学、について学習する。	1 通	72		○			○		○		
○			○	美容総合技術Ⅰ	まとめ髪、アップスタイル等の基礎技術を修得する。	1 通	90				○	○		○		
○			○	美容総合技術Ⅱ	着付けの身だしなみ、作法等を修得する。	1 通	54				○	○		○		
○				コンピュータ 実習Ⅰ	ワープロソフトを使用して、ビジネス文書の作成から簡単なポスター作成までを学習する。	1 通	30				○	○			○	

(衛生専門課程 総合ビューティ学科) 令和6年度																	
分 類			実 務 経 験	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択							講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○				コンピュータ 実習Ⅱ	表計算ソフトを使用して、四則演算、関数を用いての演算、グラフの作成などを学習する。	1 通	30				○	○			○		
○			○	色彩学	色の分類、見え方、感情、色名などの基礎を学習する。	1 通	36		○			○				○	
○			○	ビジネス実務	企業から求められる人物像、社会人として身に付けるマナー、知識を中心に、職業観、勤労観を学習する。	1 通	36		○			○				○	
○			○	社会福祉	サービス介助の考え方をもとに相手の立場に立ったおもてなしを学ぶ。	1 通	18		○		△	○				○	
○				アロマテラピー	アロマテラピーの歴史、利用法、精油についての基礎知識、プロフィールについて学習する。	1 通	36		○			○			○		
○				コスメ	化粧品に対する知識、肌悩みに応じた化粧品やメイク方法の基礎知識を学習する。	1 通	18		○			○				○	
○			○	ビューティ カウンセリング	様々なケースに対応できるカウンセリングスキル、会話力、対応力をロールプレイやディスカッションを通じ学習する。	2 通	72		○			○			○		
○			○	デザイン	顔のプロポーション、顔の部分・顔の描き方、角度の変化による顔形、いろいろな描き方によるイメージの違いを学習する。	1 通	18		○			○			○		
○				LHR	・検定対策 ・連絡事項 ・学生指導等	2 通	54		○			○			○		
合計					21 科目	1632 単位時間 (単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：定められた履修時間、1800 時間をすべて履修する。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業時間	20 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の 3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。
実務経験のある教員等による授業科目 (省令で定めた相当分) 合計 234 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	衛生管理	学科・学年	美容学科 1 年生
実務経験	あり < 薬剤師免許取得 >		
授業方法	講義		
授業内容	公衆衛生、環境衛生、感染症、衛生管理技術、衛生管理技術の実践例		
年間授業時間数	50 時間		
到達目標	衛生学を基盤にして、美容師として必要な知識と技術を習得する。		
成績評価の方法・基準	年 2 回の期末テストを実施し、80 点以上を A、79 点以下 60 点以上を B、59 点以下を C 評価とする。		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
15 時間	1. 公衆衛生	・ 公衆衛生の概要 公衆衛生の意義と課題 公衆衛生発展の歴史 美容師と公衆衛生 公衆衛生と美容師 ・ 保健 母子保健、成人高齢者保健、精神保健	●美容師にとって欠かすことのできない公衆衛生を学び、地域社会の公衆衛生向上に資するための知識を習得する。	
15 時間	2. 環境衛生	・ 環境衛生の概要 環境衛生の内容、目的と意義、環境衛生活動 ・ 空気環境 ・ 衣服・住居の衛生 ・ 上下水道と廃棄物 ・ 衛生害虫とネズミ ・ 環境保全	●環境が自然や人々の健康に及ぼす影響を知り、社会の一員として適切に行動できる知識を習得する。	
18 時間	3. 感染症（総論）	・ 感染症の総論 ・ 感染症の歴史、法律、分類 ・ 病原微生物の種類、形状、構造、増殖と環境の影響 ・ 感染症の予防、病原性と感受性、感染と発病、常在細菌叢、免疫と予防接種、感染症発生の要因、予防の 3 原則	●感染症を理解し、客と自身を感染症から守り、危害を防止するための知識と技能を習得する。	
2 時間	4. 期末試験	・ 指導内容の理解度、目標到達度を評価するに前後期 2 回の試験を実施する。		
年間授業時間数				50 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	香粧品化学	学科・学年	美容学科 1 年生
実務経験	あり < 高等学校「理科」教員免許取得、教員歴あり >		
授業方法	講義		
授業内容	香粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的。香粧品の定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安全性。身体に直接装着するつけまつ毛、まつ毛エクステンション、つけ爪の材料と使用方法。		
年間授業時間数	40 時間		
到達目標	公衆衛生に資する美容師として、身に付けなければならない知識をえる。		
成績評価の方法・基準	絶対評価 授業点+期末試験(60 点以上を合格) 合計点 80 点以上 “A”、60 点以上 “B”、40 点以上を “C”、40 点以下 “不可”		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
2 時間	1. 香粧品の社会的意義と品質特性	・ 香粧品の社会的意義 ・ 香粧品の品質と必要条件	● 香粧品について理解させる	
2 時間	2. 香粧品の規制	・ 香粧品の定義 ・ 香粧品の製造販売の規制 ・ 香粧品の品質等の規制 ・ 香粧品の表示・広告の規制	● 香粧品に関する法的規制について理解させる	
1 時間	3. 香粧品の安定性と取り扱い上の注意	・ 香粧品の安定性 ・ 香粧品の経時変化 ・ 香粧品の使用上の注意	● 香粧品の安定性と取り扱い上の注意について理解させる	
1 時間	4. 香粧品の安全性	・ 香粧品の安全性 ・ 表示成分の安全性 ・ 香粧品によるトラブル	● 香粧品の安全性について理解させる	
2 時間	5. 香粧品の対象となる人体各部の性状	・ 香粧品の種類と機能 ・ 皮膚と水 ・ 頭皮や毛髪健康な状態 ・ 爪の性状 ・ まぶたや口唇の性状 ・ 香粧品のなりたち	● 香粧品の対象となる人体各部の性状について理解させる	
1 時間	6. 水性原料	・ 水 ・ エタノール (エチルアルコール)	● 硬水と軟水について理解させる ● エタノールについて理解させる	
2 時間	7. 油性原料	・ 油脂 ・ ロウ ・ 炭化水素 ・ その他の油性原料 ・ 油性原料の機能	● 油性原料について理解させる	
3 時間	8. 界面活性剤	・ 界面活性剤の基本的性質 ・ 界面活性剤の種類 ・ 界面活性剤の香粧品への応用	● 界面活性剤の働き・製品について理解させる	
1 時間	9. 高分子化合物	・ 高分子化合物の種類と特性 ・ 高分子化合物の香粧品への応用	● 高分子化合物について理解させる	

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
2 時間	10. 色材	・色材と香粧品 ・無機顔料 ・タール色素 （有機合成色素） ・光輝性顔料 ・天然色素	●色材について理解させる	
2 時間	11. 香料	・香料と香粧品 ・香料の種類 ・調合香料	●香料について理解させる	
1 時間	12. 前期末試験			
2 時間	13. その他の配合成分	・酸化防止剤（抗酸化剤） ・防腐・殺菌剤（抗菌剤） ・紫外線吸収剤 ・収れん剤 ・その他の特殊成分	●種々の配合成分について理解させる	
2 時間	14. ネイル、まつ毛エクステンション用材料	・成繊維 ・接着剤 ・塗料	●ネイル、まつ毛エクステンション用材料について理解させる	
2 時間	15. 皮膚洗浄用香粧品	・皮膚の汚れと洗浄作用 ・石けんの種類とその性質 ・その他の洗浄剤	●石けん製法について理解させる	
1 時間	16. 化粧水	・化粧水の種類と機能性	●化粧水について理解させる	
2 時間	17. クリームと乳液	・クリーム、乳液の皮膚への作用 ・クリームの種類と機能 ・乳液の種類と機能	●クリームについて理解させる	
1 時間	18. その他の基礎香粧品	・化粧液 ・打粉 ・パック剤	●その他の基礎香粧品について理解させる	
1 時間	19. メイクアップ用香粧品	・メイクアップ用香粧品の種類と剤型		
1 時間	20. ベースメイクアップ香粧品	・おしろい ・ファンデーション	●おしろいについて理解させる ●ファンデーションについて理解させる	
1 時間	21. ポイントメイクアップ香粧品	・紅類（口紅と頬紅） ・アイメイクアップ香粧品 ・ネイル技術用香粧品類	●ポイントメイクアップ香粧品について理解させる	
2 時間	22. シャンプー用剤	・シャンプー剤 ・ヘアリンス剤 ・ヘアトリートメント剤	●シャンプーについて理解させる	
1 時間	23. スタyling剤	・スタyling剤の機能 ・油性スタyling剤 ・液状スタyling剤 ・高分子物質を基剤とするスタyling剤	●スタyling剤について理解させる	

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
3 時間	24. パーマネント 25. ウェーブ用剤	・パーマネント・ウェーブの原理 ・パーマネント・ウェーブ用剤の種類 ・パーマネント・ウェーブ用剤の第 1 剤 ・パーマネント・ウェーブ用剤の第 2 剤 ・使用上の注意	●パーマネント、ウェーブ用剤について理解させる	
1 時間	26. 後期末試験			
年間授業時間数				40 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	美容文化論	学科・学年	美容学科 1 年生
実務経験	あり＜短期大学 美術教員経験あり＞		
授業方法	講義		
授業内容	日本や海外の美容ファッションの変遷、流行について学ぶ。また、服飾の歴史、衣服の種類なども学び美容業との関連性を学習する。		
年間授業時間数	40 時間		
到達目標	理容業、美容業の歴史を理解させ、美の成り立ちやあり方への理解を深める		
成績評価の方法・基準	教科内容に即した課題を与えて、学生同士に討論させ、レポートを作成させる。		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
6 時間	1. 美容の美 2. 髪文化 3. メイクアップの文化 4. 美容業の始まり 5. 近代の美容業 6. 現代の美容業	・美容の目的と社会 ・美容文化とは何か ・ヘアスタイルとメイクアップ ・女髪結という職業 ・女髪結から美容師へ ・現代の美容と社会	●本講では「美容」が今日までの社会の中でどのような役割を持ち発展してきたかを系統立てて学び、美容のもつ社会的使命と意義について理解させる。	
6 時間	7. 古代の美容 8. 中世の美容 9. 中世の美容 10. 近世の美容 11. 近世の美容 12. 近世の美容 13. 近代の美容 14. 現代の美容・髪型 15. 現代の美容・化粧	・古代美容の髪型と化粧 ・成女式と髪型（平安・鎌倉） ・中世の化粧（室町） ・近世の髪型（安土・桃山） ・近世の髪型（江戸） ・近世の化粧（江戸） ・近代の髪型（明治・大正） ・パーマメント以降の髪型 ・現代のメイクアップ	●日本の美容の歴史を年代順にたどりながら「美容」が時代・地域・民族・政治・文化などの影響からどのような形で現れ、変化してきたかを学ぶ。さらに「社会」は美容に何を求め「時代」はどのような美容文化を築いてきたのかを理解させる。	
6 時間	16. 古代の美容Ⅰ 17. 古代の美容Ⅱ 18. 中世の美容 19. 近世の美容Ⅰ 20. 近世の美容Ⅱ 21. 近代の美容 22. 現代の美容Ⅱ 23. 美容文化のこれから	・古代エジプトの美容 ・古代ギリシャ・ローマの美容 ・中世ヨーロッパの美容 ・ルネサンスと 16 世紀 ・バロックとロココ時代 ・フランス革命後の髪型 ・1900 年代以降の髪型 ・これからの美容の流れ	●西洋の美容の文化を歴史的に辿っていくことによって「美容」がどのように生まれ発展し今日のかたちになったかを学ぶ。また同時代の日本の美容などと比較を試みながら風土や民族性と「美容」の関係などについても理解を深める。	
4 時間	24. 流行の意味 25. 流行の特色 26. 流行を追う心理 27. 流行を作る	・流行の特色と美容 ・流行の理論 ・流行の欲求と心理 ・流行の作り手としての美容師	●美容と流行は密接な繋がりを持った関係である。ここでは、流行がなぜ生まれるのか、またその必要性について考えていく。さらに流行を発信するとは何かを理解させる。	

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
9 時間	28. 日本の服装（古代） 29. 飛鳥・奈良時代 30. 平安時代 31. 鎌倉・室町時代 32. 安土・桃山時代 33. 江戸時代 34. 江戸時代 35. 江戸時代 36. 明治・大正の服装	・縄文・弥生・古墳時代の服装 ・7～8 世紀の服装 ・日本の服装（和服）の確立 ・武家文化の時代と服装 ・小袖の時代 ・江戸時代の男性服 ・江戸時代の女性服 1 ・江戸時代の女性 2 ・鹿鳴館の時代	●日本の服飾の歴史を学ぶ。服飾がその時代によってどのように生まれ変化していったかを知ることによって服飾文化の意義と役割を考えていく。特に江戸時代の服装については髪型と服装などの関係に触れあいながらその生活や風俗を含めて理解させる。	
7 時間	37. 西洋の服装（古代） 38. 古代から中世 39. 16 世紀の服装 40. 17 世紀の服装 41. 18 世紀の服装 42. ファッション革命期 43. 19 世紀の服装	・古代ゲルマン人の服装 ・12 世紀からの服装 ・巨大なスカートへのこだわり ・メンズファッションの高揚 ・サロン文化とルイ王朝 ・フランス革命と「サン・キュロット」 ・クラシックからモダンへ	●西洋の服飾史を学ぶ。服飾が発生から様々な時代とともに、どのように変化し位置づけられてきたかを学ぶことによって人間にとって服飾とは何かという根源的な問題まで考えていくことを目的とする。	
2 時間	44. 1920 年代の服装 45. 1930 年代の服装	・現代ファッションの始まり ・女性らしさから戦時調へ	●1920 年から現在までのファッションの移り変わり。変遷を追いかける。	
年間授業時間数				40 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	美容保健	学科・学年	美容学科 1 年生
実務経験	あり <実務従事経験 9 年以上、「美容保健研修」受講>		
授業方法	講義		
授業内容	人体の構造および機能、皮膚科学		
年間授業時間数	50 時間		
到達目標	美容師国家試験合格レベルの知識習得		
成績評価の方法・基準	A (80 点以上)・B (60 点～79 点)・C (40 点～59 点)・D (不合格)		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
6 時間	1. 人体各部の名称 2. 人体解剖学	・人体各部の名称の習得 ・目とその周辺のつくり ・耳・鼻・口とその周辺のつくり	●目・耳・鼻それぞれの働きを理解する（専門用語の習得）	
6 時間	3. 骨の種類と構造 4. 骨の連結 5. 骨格器系とそのはたらき	・骨のつくり、骨の働き 関節について ・全身の主な骨格器の名称 （頭蓋、脊柱、上肢、下肢骨、胸郭）	●主な骨格の名称とその働きについて理解する	
1 時間	【学習能力評価小テスト】		●学習能力のチェック	
5 時間	6. 筋の種類とその特徴 7. 主な骨格器系とその働き 8. 表情筋と表情運動 9. 理容・美容の作業と筋疲労	・全身の主な筋肉の名称と働き ・頭部、頸部、上肢と下肢、体幹の筋について ・眼、口を中心にした筋 ・立位作業と静的な筋肉疲労 ・シャンプー、パーマ、ヘアカット	●主な筋肉についてその働きを理解する （屈筋、伸筋、外転筋、内転筋、腱など）	
1 時間	【学習能力評価小テスト】		学習理解度のチェック	
5 時間	10. 神経系の成り立ち 1) 中枢神経とその働き 2) 末梢神経とその働き	・脳、脊髄、体性神経、自律神経	●中枢、末梢神経の働きを理解する （脳、脊髄） （脳神経、脊髄神経） （運動神経、交感神経など）	
1 時間	【前期期末試験】			
5 時間	11. 視覚 12. 聴覚平衡感覚 13. 味覚 14. 嗅覚 15. 皮膚感覚	・眼球のつくりについて ・耳のつくりについて ・舌のつくりについて ・鼻のつくりについて ・感覚受容器について	●眼の働きと構造 ●耳の働きと構造 ●舌の働きと構造 ●鼻の働きと構造について理解する ※第 2 編・第 4 章で詳細に学ぶ	※血液循環経路のプリントを配布 （参考資料）

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
1 時間	【学習能力評価小テスト】		●学習理解度のチェック	
6 時間	16. 血液のあらまし 1) 血液循環の仕組み 2) 血液の循環経路 3) 心臓と血管の働き 4) リンパ管の仕組みと働き	・血球成分（赤血球、白血球、血小板） ・心臓、血管 ・大循環、小循環、門脈循環について ・血圧、脈拍について ・リンパ管、リンパ節、リンパ球について	●血球成分の構造と働きについて ●心臓、血管、各循環経路、リンパ管の構造と働きについて理解する	
1 時間	【学力評価テスト】		●学習理解度のチェック	
4 時間	17. 呼吸器系のあらまし 1) 気道 2) 肺の仕組みとガス交換 3) 呼吸運動	・吸気、呼気、ガス交換、呼吸運動、 ・肺呼吸、組織呼吸について ・気道、線毛上皮、波状運動、鼻腔、 ・鼻中隔、鼻毛、咽頭、喉頭、声帯 ・気管、気管支について ・葉気管支、肺胞について ・ガス交換、肋間筋、横隔膜、呼吸器量、肺活量について	●気道、鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺、呼吸運動の構造と仕組みや働きについて理解する	
6 時間	18. 消化器系のあらまし 1) 消化管の仕組み 2) 消化管の働き 3) 消化と物質代謝	・消化と消化管について ・口腔、唾液、食道、胃腸について ・咀嚼や嚥下、胃腸の運動について ・栄養物質（門脈から肝臓へ）アミノ酸やタンパク質、ブドウ糖	●消化器の働きと仕組みを理解する ●歯の働きと構造 ●唾液腺、食道の蠕動運動、胃、腸の構造と働きについて理解する	
1 時間	【学力評価テスト】		●学習理解度のチェック	
1 時間	【後期期末試験】			
年間授業時間数				50 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	衛生管理	学科・学年	美容学科 2 年生
実務経験	あり < 獣医師免許取得 >		
授業方法	講義		
授業内容	公衆衛生、環境衛生、感染症、衛生管理技術、衛生管理の実践例		
年間授業時間数	40 時間		
到達目標	衛生学を基盤にして、美容師として必要な知識と技術を習得する。		
成績評価の方法・基準	年 2 回の期末テストを実施し、80 点以上を A、79 点以下 60 点以上を B、59 点以下を C 評価とする。		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
10 時間	1. 感染症（各論）	【感染症の各論】 ・美容業と感染症 ・空気飛沫を介するもの、飲食物を介するもの、血液等を介するもの、動物を介するもの ・標準予防策、咳のある客への対応、皮膚に病変のある客への対応、嘔吐した客への対応	●感染症を理解し、美容師として客と自信を感染症から守り、危害を防止するための知識と技術を習得する	
20 時間	2. 衛生管理技術	【消毒法総論】 ・病原微生物と非病原微生物 ・汚染、感染、発病と消毒の意義 ・殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義 ・法の規定 ・怠った場合の危険性と美容師の責任 ・消毒法の種類 ・消毒に必要な条件 ・病原微生物の抵抗力 ・消毒薬使用、保存上の注意 【消毒法各論】 ・理学的消毒法 ・化学的消毒法 ・すぐれた消毒法と実施上の注意 【消毒法実習】 ・消毒薬の概要、器具の使い方、常備する消毒薬と希釈液の濃度、希釈法 ・美容所の消毒の原則、設備、器具の消毒法、手指の消毒、その他のものの消毒 ・美容所の清潔法の実際	●客や美容師自身の感染を防止するため、消毒法を論理的に理解し、確実な消毒を行うための技術を習得する。	

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
8 時間	3. 衛生管理の実践例	・美容所における衛生管理要領 ・美容所の自主点検表	衛生管理要領に記載された内容の具体的な実例について学習する。	
2 時間	4. 期末試験	・指導内容の理解度、目標到達度を評価するために前後期2回の試験を実施する。		
年間授業時間数				40 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	化粧品化学	学科・学年	美容学科 2 年生
実務経験	あり <高等学校「理科」教員免許取得、教員歴あり>		
授業方法	講義		
授業内容	化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的。化粧品の定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安全性。身体に直接装着するつけまつ毛、まつ毛エクステンション、つけ爪の材料と使用方法。		
年間授業時間数	20 時間		
到達目標	公衆衛生に資する美容師として、身に付けなければならない知識をえる。		
成績評価の方法・基準	絶対評価 授業点+期末試験(60 点以上を合格) 合計点 80 点以上 “A”、60 点以上 “B”、40 点以上を “C”、40 点以下 “不可”		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
3 時間	1. ヘアカラー製品	・種類とメカニズム ・一時着色剤 ・半永久染毛剤 ・脱色剤・脱染剤 ・永久染毛剤（酸化染毛剤） ・ヘア・ブリーチ剤	●ヘアカラー製品について理解させる	
1 時間	2. 育毛・養毛剤	・育毛、養毛剤の使用目的と種類 ・育毛、養毛剤の原料	●育毛・養毛剤について理解させる	
2 時間	3. 芳香製品	・香水 ・オーデコロン ・その他の芳香製品	●フレグランス製品について理解させる	
2 時間	4. 特殊化粧品	・サンケア製品 ・美白用化粧品 ・制汗、防臭用化粧品 ・ニキビ用化粧品 ・除毛剤・脱毛剤	●特殊化粧品について理解させる	
1 時間	5. 物質の構成	・物質の構成 ・水の構造 ・原子量と分子量	●物質の構成について理解させる	
1 時間	6. 前期末試験			
1 時間	7. 溶液とコロイド	・溶液と溶解のしくみ ・飽和溶液と溶解度	●溶液の性質について理解させる	
1 時間	8. コロイド	・コロイドの定義と種類 ・ミセルと乳濁液	●コロイドの性質について理解させる	
1 時間	9. イオンと水素イオン指数	・イオン ・水素イオン指数	●イオンと水素イオン指数について理解させる	
2 時間	10. 酸と塩基の定義	・酸と塩基の定義と強弱 ・緩衝作用と緩衝液	●酸と塩基の性質について理解させる ●pH、中和について理解させる	
2 時間	11. 物理変化と化学変化	・物理変化と化学変化 ・中和反応と塩の生成 ・化学反応の速さ ・中和反応と塩	●物理変化と化学変化について理解させる	

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
1 時間	12. 酸化・還元反応	- 酸化と還元の定義 - 酸化剤と還元剤	●酸化、還元について理解させる	
1 時間	13. たんぱく質	- たんぱく質とその種類 - たんぱく質の構造と性質 - ケラチン	●たんぱく質について理解させる	
1 時間	14. 後期末試験			
年間授業時間数				20 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	美容文化論	学科・学年	美容学科 2 年生
実務経験	あり <実務従事経験 9 年以上、「美容文化論研修」受講>		
授業方法	講義		
授業内容	日本や海外の美容ファッションの変遷、流行について学ぶ。また、服飾の歴史、衣服の種類なども学び美容業との関連性を学習する。		
年間授業時間数	20 時間		
到達目標	理容業、美容業の歴史を理解させ、美の成り立ちやあり方への理解を深める		
成績評価の方法・基準	教科内容に即した課題を与えて、学生同士に討論させ、レポートを作成させる。		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
8 時間	1. 日本の理容業、美容業の歴史 （明治・大正・昭和）	・ 明治時代の髪型	●断髪令と髪型 ●理髪用具の国産化と髪型について理解させる。	
		・ 大正時代への髪型	●日常生活の西洋化を学ばせる。	
		・ 昭和時代の髪型（戦前）	●パーマネントウェーブの導入による髪型の変遷を学ばせる。	
		・ 昭和時代の髪型（前後）	●男性髪型の名称と女性髪型の名称を理解させる。	
8 時間	2. ファッション文化史 （日本編）	・ 明治時代の服装	●洋装のはじまりについて理解させる。	
		・ 大正時代の服装	●都会の会社員の服装の普及と職業婦人と洋服の関係について理解させる。	
		・ 昭和時代の服装（戦前）	●戦時体制と服装の変化を読みとらせ、体制の影響からどのような形で変化したかを学ばせる。	
		・ 昭和時代の服装（戦後）	●流行の流れや、流行を追う心理、流行が社会に及ぼす影響について理解させる。	
4 時間	3. 礼装の種類	・ 和装の礼装	●花嫁の礼装 ●女性の礼装・準礼装 ●男性の礼装についてそれぞれの特徴と種類、エチケットについて理解させる。	
		・ 洋装の礼装	●男性の礼装 ●女性の礼装の種類と T P O について理解させる。	
年間授業時間数				20 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	美容保健	学科・学年	美容学科 2 年生
実務経験	あり <実務従事経験 9 年以上、「美容保健研修」受講>		
授業方法	講義		
授業内容	人体の構造および機能、皮膚科学		
年間授業時間数	40 時間		
到達目標	美容師国家試験合格レベルの知識習得		
成績評価の方法・基準	A (80 点以上)・B (60 点～79 点)・C (40 点～59 点)・D (不合格)		

時間数	指導項目	指導内容 (概要)	指導目標	備考
3 時間	1. 皮膚の表面 2. 皮膚の断面	・ 皮膚の構造、皮膚の断面について	● 皮膚のそれぞれの器官の働きについて	
	3. 表皮 4. 表皮と真皮の境	・ 表皮のつくりについて ・ 表皮と真皮の境はどのようなになっているか	● 表皮内に存在する細胞の働きについて	
	5. 真皮	・ 真皮のつくりについて	● 真皮の役割と真皮に存在する汗腺、脂腺などについて	
	6. 皮下組織	・ 皮下組織とは	● 皮下組織 (脂肪細胞) の果たす役割について	
	7. 皮膚の部位差	・ 頭、顔、耳、首、の皮膚について	● 体の部位によって皮膚にはどのような特徴があるのか理解する	
3 時間	8. 毛	・ 毛の構造や成長周期と付属する筋について	● 毛の成長周期、性質全般、毛と熱との関係、性状について	
	9. 脂腺	・ 脂腺、汗腺、爪それぞれの役割について	● 脂腺と汗腺について図をもとにしてその位置を確認、エクリン腺、アポクリン腺の違いを習得、爪のつくりとその働きについて理解する	
1 時間	10. 【学習能力評価テスト】		● 学習理解度のチェック	
2 時間	11. 皮膚の血管	・ 皮膚の血管について	● 皮膚血管の分泌と血液の状態、皮膚の状態について	
	12. 皮膚のリンパ管	・ 皮膚のリンパ管について	● リンパ管の作用	
	13. 皮膚の神経	・ 皮膚の神経について	● 皮膚神経の分布と感覚について理解する	
1 時間	14. 【前期期末試験】			

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
4 時間	15. 対外保護作用	・皮膚の保護作用について	●皮膚に対する機械的外力、光線（紫外線）、化学的刺激、細菌や微生物への保護作用について	
	16. 体温調節作用	・体温調節について	●皮膚血管の拡張や収縮、発汗、蒸発熱について	
	17. 知覚作用と皮膚反射	・皮膚の知覚と皮膚反射について	●痛点、触点、冷点、掻痒（そうよう）、皮膚反射、鳥肌反応、皮膚反射について	
	18. 分泌排泄作用	・皮脂、汗の分泌について	●皮脂や汗の分泌によって体にはどのような影響があるか	
	19. 呼吸作用	・皮膚呼吸について	●動物と人間の皮膚呼吸の違いを理解する	
3 時間	20. 吸収作用 21. 貯蔵作用	・皮膚の吸収作用について ・貯蔵作用について	●経皮吸収、表皮経路、皮膚付属器官経路、構造について図をもとに説明 ●皮膚のもつ水分量について	
	22. 免疫・解毒・排除作用	・免疫・解排・除作用それぞれの役割について	●角化細胞、マクロファージ、ワクチン接種による食食、殺菌、解毒、などの免疫作用について理解する	
	23. 再生作用	・皮膚の再生作用について	●表皮、皮膚、基底細胞の再生と肉芽組織による瘢痕の有無について	
	24. 毛のはたらき	・体の各部位の毛について	●毛による機械的刺激からの保護、保護作用、性毛の特徴を理解する	
	25. 爪のはたらき	・爪（爪母）について	●爪の保護作用と爪の再生について	
4 時間	26. 皮膚と全身状態	・皮膚と全身の健康状態について	●皮膚の血色、貧血、悪液質、チアノーゼ、黄疸について	
	27. 皮膚と精神	・皮膚と精神状態について	●皮膚疾患と精神状態、ストレス、ホルモン分泌、多汗症について	
	28. 皮膚と栄養	・皮膚が生育していくのに必要な栄養について ・皮膚が生育していくのに必要な栄養について	●皮膚に必要なタンパク質、炭水化物、脂肪、無機質、血液pH、ビタミンなど、各種の栄養について	
	29. 皮膚とし好品	・皮膚とし好品について	●アルコール、たばこ、コーヒーなどの常用によって皮膚に対して及ぼす悪影響	

時間	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
	30. 皮膚と体内病変	・体内の臓器に起こる病気による皮膚疾患について ・肝臓と皮膚について ・腎臓と皮膚について ・胃腸と皮膚について ・膵臓と皮膚（糖尿病と皮膚変化）について	●肝臓障害、腎臓炎、胃腸障害、便秘、糖尿病が原因で起こる皮膚疾患について理解する	
4 時間	31. 皮膚の水分と脂の状態	・しわ、乾皮、あぶら性の皮膚、敏感肌について	●しわ、乾皮、あぶら性の皮膚、敏感肌と皮膚付属器官の状態を理解する	
	32 皮膚・付属器官とホルモン	・皮膚、脂腺、毛とホルモンについて	●男性ホルモン、女性ホルモン、副腎皮質ホルモンの分泌と脂腺、毛と皮膚の関係を理解する	
	33. 皮膚と保護と手入れ	・皮膚の保護 ・皮膚手入れ ・ひげそりあとの皮膚の手入れ ・ふけ症の手入れ ・汗をかきやすい部位の手入れ ・紫外線に対する皮膚の手入れ ・皮膚表面の pH と化粧品 ・皮膚の色を白くする化粧品 ・硬い皮膚のケア	●ストレス、飲酒、喫煙、化粧品に対する皮膚の保護。皮膚表面の衛生や紫外線に対するケアについて	
	34. 毛の保護と手入れ	・毛の衛生やケアについて	●脂腺から分泌される皮脂やブラッシング、シャンプーの果たす役割について理解する	
		・傷んだ毛とそのケア	●パーマネントウェーブや染毛剤、熱による傷害について理解する	
2 時間	35. 爪の保護と手入れ	・爪の手入れについて	●ネイルエナメルやパーマネントウェーブ（第1剤）が爪のケラチンに悪影響を与えることを理解する	
	36. 子どものおしゃれによる皮膚トラブル	・おしゃれによる皮膚トラブルについて	●染色、化粧品、アイメイク、マニキュアなどによるトラブルについて理解する	
4 時間	37. 皮膚の以上とその種類	・発疹について	●原発疹（紅斑・紫斑、）、皮膚色素異常、続発疹について	
	38. 皮膚疾患の原因	・皮膚の病気（皮膚疾患）について ・日光皮膚炎（日焼け）、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、蕁麻疹について	●アレルギー現象（化粧、パーマネントウェーブ、染毛剤、まつ毛エクステンション）による接触皮膚炎、麻疹などについて	
	39. 温熱・寒冷による皮膚障害	・熱傷、凍傷、凍瘡ヒビとアカギレについて	●熱傷の程度によって瘢痕を残さず治る場合と、残ることを理解する	

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
3 時間	40. 色素異常による皮膚疾患	・タコ、ウオノメ、などについて	●皮膚に機械的な刺激が絶えず加わると、タコ、ウオノメができることを理解する	
	41. 色素異常による皮膚疾患	・雀卵斑（ソバカス）、肝斑（シミ）尋常性白斑（シロナマズ）について	●メラニンの増加で起こる色素沈着とメラニンの減少で起こる白斑について理解する	
4 時間	42. 分泌異常による皮膚疾患	・尋常性痤瘡（ニキビ）について	●男性ホルモンにより皮脂腺からの皮脂の分泌亢進によるニキビの発生について	
		・腋臭症（ワキガ）について	●腋窩のアポクリン腺から分泌される汗の臭いとケアについて	
	43. 化膿菌による皮膚疾患	・細菌（化膿菌）につて	●細菌感染で起こる皮膚疾患（伝染性膿痂疹、毛包炎、癰、尋常性毛瘡）などについて	
	44. ウイルスによる皮膚疾患	・ウイルスについて	●ヘルペス、などについて	
	45. 真菌による皮膚疾患	・真菌（カビ）について	●白癬菌、癬風菌について	
	46. 衛生害虫による皮膚疾患	・衛生害虫について	●疥癬、虱などによる皮膚の状態を理解する	
	47. 毛と爪の疾患	・白髪、脱毛について	●白髪や男性型脱毛症、円形脱毛症の原因について	
		・爪の疾患	●爪には身体のあらゆる症状が現れる、爪の形や色に変化がみられるその要因を理解する	
1 時間	48. 【学習能力評価テスト】		●学習理解度のチェック	
1 時間	49. 【後期期末試験】			
年間授業時間数				40 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	エステティック学科 I	学科・学年	総合ビューティ学科 1 年生
実務経験	あり <実務従事経験 9 年以上>		
授業方法	講義		
授業内容	エステティック概論、皮膚科学、解剖生理学、栄養学、ボディ実技理論、フェイシャル実技理論		
年間授業時間数	36 時間		
到達目標	トータルビューティを基本理念とし職業型実学教育に基づきエステティックの基礎・応用技術、知識を学び資格検定取得、実務的な職業能力を高め即戦力となる人材育成。		
成績評価の方法・基準	学期末に期末試験を実施し、試験の結果一定の基準に達しない場合には追試験を行い、各種検定取得の目標達成のため所定の単位の修得を行っている。出席状況、授業態度も評価対象とする。		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
2 時間	1. エステティック概論	・エステティックの概念や歴史、産業としての規模と方向性、将来性、エステティックに関連する法律、業界の取り組むべき課題とその具体的な事例などを総合的に学習し理解する。	●自分の関わっていく業界について歴史、将来性などを理解する。関連する法律について学び、遵守することの大切さを学ぶ。	※日本エステティック業協会 ※エステティック概論テキスト
10 時間	2. 皮膚科学	・皮膚の構造・皮膚の生理機能及び臓器と栄養素との関係性・肌老化や疾患などを理解しトリートメントの際に対応できる知識を身につける。	●エステティックを施す際に必要な肌の基礎知識を学ぶ。皮膚の構造・生理機能を学ぶことで、エステティックの基本原理である「スキンホメオスタシス（皮膚の恒常性維持機能）」を高めることを理解する。	※皮膚科学テキスト
6 時間	3. 解剖生理学	・人体を構成する細胞、組織、器官、器官系について学びそれぞれの特徴や働きを理解する。筋肉の仕組み、免疫システム、アレルギーなどの仕組みを理解する。	●人の身体に触れて施術をする上で必要な基本的知識の習得をする。人体の構造と働きの基本を理解しエステティックサービスが正しく効果的に且つ安全に行えるようにする。	※解剖生理学テキスト
6 時間	4. 栄養学	・代謝の仕組み、栄養素について理解する。5 大栄養素、3 大栄養素とその働きを理解する。基礎代謝量、摂取エネルギー量について理解し、体重管理が行えるようにする。	●食物の栄養素と健康の関係を学び、エステティック施術に役立つアドバイスができるようになる。又、各項目をより深く熟知することで、お客様とのコミュニケーションを深め、エステティック効果を高められるようにする。	※栄養学テキスト

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
5 時間	5. ボディ実技理論	・ボディマッサージを行うにあたり、エステティシャンとしての心得を理解する。 6 つの基本手技、手法、効果をそれぞれ理解する。	●ボディトリートメントを行う上でそれぞれのトリートメントの基本手技、目的、効果、禁忌事項を理解する。	※ボディ実技理論テキスト
5 時間	6. フェイシャル実技理論	・フェイシャルトリートメントの大きな3つの構成（クレンジング・機器トリートメント・マッサージ）を理解し、肌に合わせた施術の流れの構成の必要性を理解する。	●お客様の肌分析に基づき対応力のある施術とアドバイスができるエステティシャンを育てる。	※フェイシャル実技理論テキスト
2 時間	7. 期末試験	・一年次に学ぶべき基礎知識を中心に出题（前期・後期）	●基礎知識をどのくらい理解できているか把握させる。	
年間授業時間数				36 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	色彩学	学科・学年	総合ビューティ学科 1年生
実務経験	あり <実務従事経験 10 年以上>		
授業方法	講義		
授業内容	色の表示、光と色、色彩心理、色彩調和、ファッション、インテリア等の知識		
年間授業時間数	36 時間		
到達目標	A F T 色彩検定協会 色彩検定 3 級取得、および色彩の知識と技能を社会生活で役立てること		
成績評価の方法・基準	出席：30%、授業態度および課題提出：20%、期末試験：50%による総合評価		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
4 時間	1. 色を表す方法	- 色に関する基礎知識（イントロ） - 色相環（マンセル、P C C S） - トーン図（P C C S） - 色を言葉で表す方法	●色に興味を持ってもらう 覚えなければいけない図（マンセル、PCCS 表色系）の 確実な習得	
4 時間	2. 色と光	- 色の正体（：光）と光の性質 視覚のしくみ（目の構造、視細胞） - 色の見え方と照明（光源）の 関係 - 混色について	●物理学、生理学、医学の知 識が必要となる難解な部 分。できるだけ分かりやす く、記憶に残るように指導	
4 時間	3. 色と心理	- 色の持つ心理的効果 - 様々な視覚効果（色が起こす現象） - 様々な知覚的効果（錯視） - 生活の中での色の働き	●日常生活に大きく関りを 持っている色の効果。それ を知識として覚えるだけ ではなく、実生活で実践で きるように指導	
4 時間	4. 色の調和と効果	- 色相とトーンによる配色（カラーコーディネート） - 様々な配色テクニックと効果	●色彩検定で最も大切とな る「配色」。続く「ファッ ション」「インテリア」の配 色の基本ともなる。確実に基 本を押さえる	
6 時間	5. 色とファッション	- ファッション業界・ファッ ションビジネスの基本 - ファッションカラーコーデ ィネーション	●A F T 色彩検定協会の母 体はファッション関連組 織。検定試験でも問題数で は最多の部分。配色に重点 をおいて指導	

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
3 時間	6. 色とインテリア	・ インテリアカラーコーディネーションの方法 ・ インテリアと色彩効果 ・ インテリアの色彩検討	●実生活でも活用できる「実用性の高い」領域。興味を引き出しながら記憶に残るように指導	
11 時間	7. 色彩検定・過去問題対策	・ 直前の集中過去問題演習	●色彩検定には「傾向と対策」がある。多くの過去問にあたることで、それを感得させる	
年間授業時間数				36 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	エステティック学科Ⅱ	学科・学年	総合ビューティ学科 2年生
実務経験	あり <実務従事経験 9 年以上>		
授業方法	講義		
授業内容	心身生理学、化粧品学、サロンでの衛生・消毒、エステティック関連法規、サロンマネジメント、エステティックカウンセリング理論		
年間授業時間数	72 時間		
到達目標	トータルビューティを基本理念とし職業型実学教育に基づきエステティックの基礎・応用技術、知識を学び、資格検定取得、実務的な職業能力を高め即戦力となる人材育成。		
成績評価の方法・基準	学期末に期末試験を実施し、試験の結果一定の基準に達しない場合には追試験を行い、各種検定取得の目標達成の為所定の単位の修得を行っている。出席状況、授業態度も評価対象とする。		

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
10 時間	1. 心身生理学	・ホメオスタシス（恒常性維持機能）の仕組みを具体的に理解する。自律神経、免疫系、内分泌系の仕組みと働きを理解し、生体環境へのストレスについて考える。	●心と脳、神経との関わり、ストレスと食欲の関係、肥満との関連。肌に対しての影響を考え、実際にお客様へのアドバイスにつなげられるようにする。	※日本エステティック業協会 ※心身生理学テキスト
3 時間	2. 化粧品学	・医薬品医療機器等法を理解した上で化粧品、医薬部外品の役割と定義を理解する。化粧品に含まれる成分を理解する。	●エステティック技術を行うにあたり化粧品原料・成分の特徴効果の知識を深め、肌状態に合った化粧品に関するコンサルテーションができるようになる。	※化粧品学テキスト
3 時間	3. サロンでの衛生・消毒	・公衆衛生について歴史を含め理解する。エステティック業で行われる消毒と滅菌について理解し消毒方法全般に関する理解を深める。	●エステティシャンにとっての衛生管理の必要性を理解し、実践できるようにする。	※サロンでの衛生・消毒テキスト
2 時間	4. エステティック関連法規	・エステティック契約、施術に関連する様々な法律を学ぶ。日本エステティック振興協議会策定の「エステティック業統一自主基準」を理解する。	●エステティック業に従事するために、関連する法律の基礎知識を学び、エステティックの安心・安全の社会的意義と、その重要性を理解し、コンプライアンス（法令等の遵守）の意識を育てる。	※エステティック関連法規テキスト
3 時間	5. サロンマネジメント	・サロン運営における業務の流れや、商品説明のロールプレイング、お客様の目に留まるPOP作成などの実践をする。	●エステティシャンの接客に必要なホスピタリティマインド（おもてなしの心）を育てる。	※サロンマネジメントテキスト

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
10 時間	6. エステティックカウンセリング理論	・エステティックサロンにおけるカウンセリングと心理学カウンセリングの違いを理解し、エステティシャンがアドバイスする行為をコンサルティングとして理解する。	●心理的カウンセリングの手法と、コンサルティングのアドバイスの要素をふまえたエステティックカウンセリングの全体を理解し、お客様の心に響くエステティックカウンセラーとしての意識を育てる。	※エステティックカウンセリングテキスト
39 時間	7. A E A 上級認定エステティシャン筆記試験対策	・ J E O 認証 A E A エステティシャン認定試験例題集の全問解説	●全問解説をし、反復練習をさせる。	※日本エステティック業協会テキスト全巻 ※ J E O 認証 A E A エステティシャン認定試験 例題集
2 時間	8. 期末試験	・ J E O 認証 A E A エステティシャン認定試験と同範囲	● A E A 上級認定エステティシャン取得の為。	
年間授業時間数				72 時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

教科目名	トレンドメイク	学科・学年	総合ビューティ学科 2 年生
担当教員	あり <実務従事経験 9 年以上>		
授業方法	実習		
授業内容	・メイクアップ応用・印象別イメージメイク・モデルに合わせたメイクアップとそのアドバイス法		
年間授業時間数	90 時間		
到達目標	幅広いメイクアップの応用を学び、技術を習得させる		
成績評価の方法・基準	実技・提出物・出席状況を総合として A (80 点以上) B (60 点～79 点) C (40 点～59 点) D (不合格)		

時間数	指導項目	指導内容 (概要)	指導目標	備考
3 時間	1. メイクアップにおける色. 形. 質感の表現	・色の三属性. イメージトーン. 混色 ・メイクアップを表現する質感 ・形に錯覚. イメージ ・造形理論	●視覚的に例をあげ、美しさの演出に活かせるようイメージづくりの方法を学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	2. メイクアップの応用 (イメージメイクアップの理論)	・イメージ別メイクアップ (キュート・セクシー・エレガント・クール)	●印象別イメージメイクについて学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	3. イメージメイクアップ② (セクシー)	・セクシー編 (色っぽい大人の女性の印象)	●セクシーに見せるための化粧品の質感. 色. フォルム. 強さ、それぞれのテクニックを学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	4. イメージメイクアップ③ (エレガント)	・エレガント編 (上品で優雅な印象)	●エレガントに見せるための化粧品の質感. 色. フォルム. 強さ、それぞれのテクニックを学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	5. イメージメイクアップ④ (クール)	・クール編 (知的な大人の女性の印象)	●クールに見せるための化粧品の質感. 色. フォルム. 強さ、それぞれのテクニックを学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	6. モデルのイメージに合わせたイメージメイク	・カウンセリングシート作成 ・カウンセリングシートに沿ったイメージメイクアップ	●モデルのイメージをとらえ、カウンセリングを行い、シートに沿ったイメージに仕上げられるように学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
3 時間	7. パーソナルカラー理論	・パーソナルカラーの理論と自己診断	●ひとりひとりが理論をもとにテストドレープを用いて顔写りの違いを確認する	※テキスト ※スクール教材キット

時間数	指導項目	指導内容（概要）	指導目標	備考
6 時間	8. パーソナルカラーを 応用したメイク	・ブルーベース ・イエローベース ・4 シーズン	●イメージメイクの一例 として産まれもった自 分の顔を活かす色使い を学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	9. パーティーメイク	・衣装に合わせた華やかなメイ クアップやハロウィンなど のキャラクターメイク	●自由にメイクを楽しむ	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	10. 悩み解決メイク	・カウンセリング方法 ・メイクアップアドバイス方法	●メイク前後で悩みが解 決できているかを確認 する	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	11. トレンドメイク	・ファッションや流行、今話題 になっているメイクアップ を楽しむ	●日本のトレンドメイク イメージづくりの提案 と発表	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	12. トレンドメイク	・ファッションや流行、今話題 になっているメイクアップ を楽しむ	●コントゥアリングメイク イメージづくりの提案 と発表	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	13. トレンドメイク	・ファッションや流行、今話題 になっているメイクアップ を楽しむ	●オルチャンメイク イメージづくりの提案 と発表	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	14. トレンドメイク	・ファッションや流行、今話題 になっているメイクアップ を楽しむ	●チャイボーグメイク イメージづくりの提案 と発表	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	15. トレンドメイク	・ファッションや流行、今話題 になっているメイクアップ を楽しむ	●モード系メイク イメージづくりの提案 と発表	※テキスト ※スクール教材キット
6 時間	16. ヘアアイロン・ドラ イヤー・整髪料の使い 方	・イメージメイクに連動する前 髪や顔まわりの髪のアレン ジ方法	●シチュエーションを定 義してそれに合わせた メイクアップと簡単な ヘアアレンジを学ぶ	※テキスト ※スクール教材キット
年間授業時間数				90 時間